

# 赤

毛のアン』の日本初  
の全文訳で知られる  
松本侑子さん。その

新刊は幕末を舞台に実在の人物・井上馨介（しゅうすけ）をモデルに描いた歴史小説だ。

「歴史書や古文書をもとにして  
ますが、7〜8割は創作です。  
何年何月に何が起きたのかは事  
実ですが、誰がどんなことを言  
ったとか、蜂起に燃えたり、裏  
切りに泣いたとかいう感情は、  
想像で創りあげました」

物語のテーマは、江戸時代最  
後の年（1868年）に起こった  
隠岐（おき）騒動だ。日本海  
の隠岐島は、出雲国松江藩の領  
地だったが、庄屋が3000人の  
武装農民を集めて藩役人を追  
い出し、自治政府を立てた、そ  
の顛末を描く。

「この史実を知ったのは、20年  
前、五木寛之氏の『日本幻論』  
を読んだのがきっかけです。幕  
末の日本に、世界初の三権分立  
の自治政府があったと知って、  
驚いたんです。誰も書いていな  
い幕末のドラマを書こうと、書  
ける力量を養っていました」

庄屋の馨介は、蜂起した隠岐  
正義党の書記を務めた男だ。後  
に明治天皇の侍講となる中沼了  
三のもとで儒学を学び、尊王攘  
夷と倒幕を志していく。

隠岐には異国の黒船が来るた  
め、防衛の文武館の創設を松江  
藩に乞うが、三度にわたって却  
下される。また松江藩は重税を  
かけて、島民の暮らしは苦しく、



6  
こんげつの  
ブックマーク

おおらかな想像力を駆使して描く、  
知られざる幕末の動乱ストーリー

## 『神と語って 夢ならず』 松本侑子

取材・文＝増淵俊之 写真＝下林彩子



舞台は幕末、慶応4年の隠岐島。勤王の井上馨介ら庄屋や大宮司を中心に、武装した農民たちが松江藩の郡代を島から追い出した民衆蜂起が起こる。世界初の民衆自治とされるフランスのパリ・コミュンより3年早く行われた三権分立の自治は、しかし80日間で幕を閉じてしまう……。明治維新前夜の知られざる動乱を緻密な取材と考証で描いた一冊。

光文社 1890円

藩への反感があった。  
「もともと隠岐島は、鎌倉幕府  
打倒をめざした後鳥羽上皇と後  
醍醐天皇が流されて、島民には、  
倒幕と勤王の気風があったんで  
す。」  
ところが、島を治める松江の  
藩主は、徳川家康の血をひくの  
で幕府に忠誠を誓い、鳥羽伏見  
の戦いでは幕府軍について、薩  
長の新政府と敵対します。隣の  
鳥取藩は、藩主が水戸藩主の息  
子なので、水戸学の勤王思想か  
ら新政府につきまします。対岸の隠  
岐では、民衆蜂起が起きる。  
この三つどもえの戦いの背後  
で、倒幕をめざす京の新政府が、  
漁夫の利をねらいます」  
馨介の民衆自治は、明治政府  
の二枚舌に裏切られ、松江藩の  
武力反撃に遭い、悲劇の死をむ  
かえる。教科書には載らない明  
治維新の「陰」の事実である。  
「馨介は倒幕に協力したのに、  
中央集権化を進める明治政府に  
裏切られていく。まだ地方自治  
の考えはない時代ですから、徴  
兵や租税を全国に課したり、文  
明開化を進める政府にとって、  
隠岐の自治と攘夷（鎮国）は、  
邪魔だったんでしょう」

残された資料を丹念に調べ、  
取材を重ねた松本さんの筆致は  
淀みがない美しさがある。歴史  
モノに弱い人でも、すらすら読  
める端正な小説だ。  
「幕末の小説が好きならこれ  
ば、苦手な人もいる。苦手な人  
が読んで楽しめるように、新  
撰組とは何か、尊王攘夷は何か、  
鳥羽伏見の戦いとは何か、さり  
げなく盛り込んで書いたので、  
幕末を知らない人も、面白く読  
んで頂けると嬉しいです」  
馨介ら主要な登場人物たちの  
子孫にも会い、筆の想像力をい  
かんなく増していった。  
「馨介のご子孫がいい方で、何  
を書いてもいいと。だから巨大  
な黒船に腰を抜かしたり、娼妓  
に甘えたり、松江藩に復讐する  
ための資金集めで公金横領をし  
たりと、創作もまじえて負の部  
分も書きました。完璧なスーパ  
ーヒーローが革命を起こしても  
つまらない。未熟で、泣き叫ん  
だり、憎んだり、そんな男が目  
覚めて、天地を動かす成長の物  
語が面白いかと」  
明治維新や倒幕は、薩長の武  
士と公家だけがなした遂げたの  
ではない。馨介たち市井の志士や  
民衆の「新しい国づくり」にか  
けた理想と死闘があったからこ  
そ」と松本さんは語る。  
歴史小説として隙なくまとめ  
あげ、おおらかな想像力をま  
まもって登場人物たちの「その後」  
も描く本作。読後感ほほろ苦く  
もあり爽やかで、動乱の時代を  
活写した渾身のドラマティック  
な物語を堪能できよう。

まつもと・ゆうこ ● 1963年鳥根県生まれ。87年『巨食症の明けぬ夜明け』ですばる文学賞を受賞。英文学士。和書からの引用を多数解明した日本初の全訳『赤毛のアン』で脚光を浴びる。2010年『恋の虫 山崎富栄と天宮治』で新田次郎文学賞を受賞。

